

■新聞掲載記事 【高知市・南国市が消防団員にエアジャケットを配備】

南海地震の津波や水害時、救助活動に当たる消防団員の装備として、高知市消防局と南国市消防本部は空気で膨らむエアジャケット（瞬間膨張防護服）を導入する。エアジャケットは、高所作業者らの防護用に使われているが、災害救助用に導入するのは全国で初めて。

東日本大震災の津波で救助活動中の消防団員が多数犠牲になったことから、両市は「団員の命を守って初めて市民の命を守るができる」と安全装備の充実に着手。南国市消防本部は6月末までに10着、高知市消防本部は年内に80着を配備する。

津波救助 エア胴衣で

高知市、南国市初
消防が全国



エアジャケットの使い方を学ぶ消防関係者
(高知市布師田)

このエアジャケットは、瞬間にエアーを充填する。風船アタックから二酸化炭素を製造している千葉が入って膨らむ。水に浮く。腰のレックだけでなく、流木など

の衝撃から首や脊髄などを守る。

発泡スチロール入りの救命胴衣と違い、必要な時だけ膨らませることができ、陸上活動の際も邪魔にならないという。

両市の消防団などは21日、高知市布師田の国分川河川敷で80人が参加して、合同講習会を開催。人が溺れたとの想定で救助のデモンストレーションも行った。

南国市消防本部総務課消防団係の宮本範和さんは「案に浮くことができるし、多少の漂流物が当たっても大丈夫そう。さまざまな用途で使えるのではないかと話していた。」

(笹島康仁)

【高知新聞 2012.5.22】

消防団にエアジャケット

南国、高知市が配備



高知市と南国市の消防団員に配備されるエアジャケット

南国市消防本部と高知市消防局は、津波や台風などの災害現場に駆け付ける消防団員の

身の安全を守るため、首などを保護するエアジャケット「瞬間膨張防護服」を、それぞれ

南国、高知市が配備

消防団に配備することを21日までに決めた。高知市消防局によると、消防機関での導入は珍しいという。

高知市消防局によると、活動中の団員が逃げ遅れた場合に使うのが主な目的。浮輪としての機能がある上、津波など水害時に水中の漂流物から首や背骨、胸を保護できる構造だ。市消防局は「膨らませない状態で着用しても救命胴衣より動きやすい」と説明している。

南国市消防団には6月末までに約140着、高知市の消防団には年内に約810着を配備する予定。今後、消防署職員にも用意する。

【毎日新聞 2012.5.22】